



知っていますか？ シックスクール

子どもの環境を考える親の会
連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
No.81 2010年12月
会報は皆さんの会費によって作られています。
郵便振替 02760-4-77134 1100円/年

『CT検診で肺がん死亡率2割減』ってホント？

胸部X線による検診より、胸部CTによる検診のほうが喫煙者や元喫煙者の肺がん発見の有効性が高く、死亡率が20%減少したと米国立がん研究所(NCI)が発表しました。新聞記事だけを読むと、「よし、次の検診では胸部X線撮影はやめて、CTにしてもらおう！」と思った人は少なくなかったのではないのでしょうか。

そこで、高木学校の崎山先生にこの報道についてうかがいました。注意しなければならぬ点は、この調査は、調査対象者が、1日1箱のたばこを30年以上吸い続けた55歳～74歳のヘビースモーカーの人達だということ。つまり、非喫煙者を含む一般の集団に、CT検診を受けなさいという意味ではないこと。さらに、そのまま他の喫煙者集団に当てはめて、喫煙者全員がCT検診を受けるべきだということもできないという点です。崎山先生は、「55歳～74歳までのヘビースモーカーに対しては、治療可能な癌を発見するという利益がリスクを上回るかもしれないが、それを一般化はできないということや低線量 CT であっても繰り返し受けることで被ばくのリスクを伴うことなどを、今回の新聞報道はきちんと伝えていない」と指摘しています。

「低線量」とはいっても被ばく量はかなり大きいので、発がんの危険性や、過剰検査の可能性もでてくるでしょう。今回の結果は慎重に解釈する必要がありそうですね。



朝日新聞 読売新聞 アメリカ国立癌研究所 National Cancer Institute <http://www.cancer.gov/clinicaltrials/noteworthy-trials/nlst> tak アメーバブログ 仙台星陵クリニック HP

ザルツブルグー 子どものいる環境では「有線」を！ 日本 — 校内無線 LAN の整備を！

カナダでは、無線 LAN など Wi-Fi (ワイファイ) の電磁波の健康影響が報道され、無線 LAN の導入を廃止する学校や無線 LAN を撤廃した大学がでてきたそうです。ドイツでは、無線 LAN の代わりに有線、携帯電話の代わりに有線の電話を使うことを国民に勧告しました。フランスでは無線 LAN を小学校から撤去。スイスではすでに国民向けに電磁波スモッグ対策のパンフレットを作成しているそうです。オーストリアのザルツブルグ公衆衛生課は電磁波の影響を警戒し、Wi-Fi (無線 LAN) の導入は、すべての学校および保育園で禁止すべきと勧告しました。

さて、日本は、小学校などに電子教科書を 2015 年までに導入する計画を推進し、総務省は今年 8 月、「フューチャースクール推進事業」の実証研究を開始しました。請負先と実証校は右記参照。実証実験では、タブレット PC (全児童 1 人 1 台) や電子黒板 (全普通教室 1 台)、校内無線 LAN の整備などの ICT 環境の構築を目指しているということです。

実証校の一つである葛飾区立本田小学校では、これまでは校内に電子黒板が 1 台あるだけでしたが、実証校として環境整備が行われた結果、各教室に 1 台の電子黒板と生徒 1 人につき 1 台のタブレットパソコン、さらにタブレットパソコンをネットワーク接続するための無線 LAN 環境が整備されたそうです。

北鎌倉・鎌倉の携帯基地局乱立による複合電磁波汚染の改善を目指すブログ <http://ameblo.jp/kitakamakurakeitaing/> 電磁波なび 見えない恐怖～脳と体をむしばむ電磁波が危ない!! 総務省 電磁波問題 HP まちがいだらけの予防接種/藤井俊介 日経ニューメディア 教育マルメディア 丸亀市立城北小学校 HP 総務省 ウィキペディア 他

【参考資料】 朝日新聞 読売新聞 tak アメーバブログ 仙台星陵クリニック HP 北鎌倉・鎌倉の携帯基地局乱立による複合電磁波汚染の改善を目指すブログ 電磁波なび 日経ニューメディア エキサイトニュース 見えない恐怖～脳と体をむしばむ電磁波が危ない!! 総務省 電磁波問題 HP まちがいだらけの予防接種/藤井俊介 消費者レポート第 1433 号、1473 号 かずの歯科・小児歯科HP 社団法人日本学校歯科医会HP 他



寒さに負けず電気毛布もコタツも…やめましょう



電気毛布でこんな調査があります。マサチューセッツ工科大学の調査によると、電気毛布を愛用していた妊婦の異常出産は使用していない妊婦の6倍に。米国のデクン・リー博士が、行なった調査では、赤ちゃんができにくかった母親の場合、泌尿器異常の発生率が 4 倍になり、特に妊娠 3 ヶ月以内では、先天異常が10倍になったそうです。妊娠中に 16mG 以上の強い電磁波を浴びると流産の危険性が2倍になり、特に妊娠 10週以内の暴露では6倍になるという疫学調査の結果も。ノースカロライナ大学のサビッツ教授が行った小児がんの研究では、妊娠中に電気毛布を使用した場合、その子どもが脳腫瘍になる確率は、使用しないケースに比べて約 2.5 倍だったそうです。電磁波は、1mG でも影響があることがわかっています。少なくともからだに近づけ長時間使用する電気機器の使用は、避けた方がよいといえるでしょう。

環境省の調査によると、関東のコタツの普及率は65%にのぼるそうです。そのコタツの電磁波が、中心部 150mG、周縁でも 5mG 以上もある製品が販売されているそうです。「コタツに入って、のんびり」というのは、やめた方がいいかもしれませんね。

大人 フッ素洗口体験で急性アレルギー

9月に北海道が学校関係者を対象に行なったフッ素洗口実施基礎研修会で、フッ素洗口(洗口液 900ppm)体験直後に上あごの歯茎がしびれ、下唇の裏に水泡ができるという事故がありました。被害にあわれた方は、もともとアレルギー体質だったそうですが、フッ素洗口ガイドブックには、使っていない病気は「ない」とし、アレルギーの原因になることも「ない」としているそうです。このような、危険な物質を子どもに、しかも学校で使うことに あなたは疑問を感じませんか？

フッ素なしで、虫歯なし

日本学校歯科医会では毎年、学校歯科保健への取り組みが優良な学校を『全日本学校歯科保健優良校』として表彰していますが、08年度最優秀賞を受賞した10校のうち、8校は集団フッ素洗口を実施していなかったそうです。歯科医会は、この現実とフッ素で虫歯予防との関係をどのように見ているのでしょうか。

『保健だより』 道教委に通報！

A学校の先生が、保護者が判断する材料にと、フッ素洗口についての情報を保健だよりに載せたところ、北海道教育委員会に通報されてしまいました。道教委は、「フッ素洗口を推進すべき養護教諭が、それに疑問を呈するような保健便りを配布することは極めて問題のある行為」とし、該当の教育委員会と学校長に謝罪のための保護者会を開催するよう迫ったそうです。もし、あなたの子どもの学校で同じことが起きたら、このばかげた通報のせいで、大事な情報が断たれてしまいます。私たちにはいつでも両方の意見を聴き、物事を判断する権利があります。行政が一方向的に片方の情報を止めてしまうことは、決して許されることではありません！皆さんの情報もお待ちしています。

あなたは 日本人流か 中国人流か

予防接種情報センター代表の藤井俊介氏は、著書『まちがいだらけの予防接種』の中で「民主主義とは、命や健康・財産といった基本的な生活条件に関する問題については、政府がプラスとマイナスのすべての情報を調査・収集し、国民にあらゆる手段を用いて周知させ、その上で一人ひとりに判断をゆだねること」だとしています。さらに、「日本人はエリート大学を卒業した「えらい人」におまかせしておけば間違いないとする傾向があり、このような認識では民主主義は育たない」と憂えています。

作家の陳舜臣(ちん しゅんしん)さんが、ある本の中で「日本人はそれがウソだと判るまでは信じつづける。中国人はそれが本当だと判るまでは疑いつづける」と述べているそうですが、そこで藤井氏は「あなたは日本人流か？ 中国人流か？」と投げかけています。今、私は中国人流で会報を作っています。

2011 年もご支援ください。

神聡子

